令和3年度

野生動植物への放射線影響調査において採取した試料の 放射能濃度測定値と被ばく線量率の推定値

1. はじめに

環境省では、東京電力福島第一原子力発電所(以下、「福島第一原発」という。)事故にともなう放射性物質の拡散による周辺地域の野生動植物への影響を把握するための調査を実施しています。本調査では、福島第一原発周辺において、野生動植物の試料の採取、空間線量率及び採取試料の放射能濃度の測定、被ばく線量率の推定を行っています。

2. 調査結果(令和3年度)

国際放射線防護委員会(ICRP)の定めた「標準動物及び植物」の考え方に基づいて選定した種(標準動植物)を中心に、野生動植物の試料を採取しました。採取した試料については、可能な限り種の同定まで行い、外部形態について確認をしました。令和3年度の環境省の調査で採取した試料については、いずれも外部形態の異常は確認されていません。採取した野生動植物の試料、環境試料(リター層*、土壌及び水)については、セシウム134及びセシウム137の放射能濃度を測定しました。(表1~7)

※: リター層とは土壌の上部にある落葉落枝等からなる有機物を含む層。

表1 採取した試料の数と採取地の空間線量率

	哺乳類	無脊椎動物	植物	計
採取個体数	46	58	約 30	約 134
放射能濃度 測定試料数	46	30	18	94
環境試料 測定試料数* ¹		_		11
空間線量率* ²	1. 3–15. 1	1. 3–15. 1	2. 9-10. 9	_

*1:野生動植物の試料を採取した地点で採取したリター層、土壌及び水の試料の数。

^{*2:}野生動植物の試料採取地点で計測した空間線量率の最低値と最高値。(単位:μSv/h、 小数第2位を四捨五入)。

表2 哺乳類(ネズミ類)及び採取地周辺の環境試料の放射能濃度

С	空間線量率	種	生化	本の放射能濃 (Bq/kgFW)	農度		Aの放射能濃 q/kgDW)	度
	(<i>μ</i> Sv/h)		Cs-134	Cs-137	合計	Cs-134	Cs-137	合計
浪江町 南津島	2. 4 (2. 1–2. 6)	アカネズミ	240	8, 300	8, 500	リター層 210 土壌 2, 300	5, 000 64, 000	5, 200 66, 000
\ <u></u>			81	2, 000	2, 100			
			32	750	780	リター層 :		
双葉町	1.5		1, 100	28, 000	29, 000	990	26, 000	27, 000
山田	(1. 3–1. 6)	アカネズミ	<100	3, 500	5 000	土壌:	20,000	21,000
			200	4, 800	5, 000	1, 000	27, 000	28, 000
			68	2,000	2, 100			
			52	1, 200	1, 300			
			31	850 970	880			
					1,000			
			22	900	920			
			27	860	890			
			29	890	920			
			28	930	960			
			51	1, 300	1, 400			
1.05.00		アカネズミ	26	650	680	リター層:	40.000	40.000
大熊町	3. 4 (2. 8–4. 0)		24 22	500 560	520 580	380	13, 000	13, 000
小入野			28	650	680	土壌: 2,400	66, 000	68. 000
			110	3, 000	3, 100	2, 400	00, 000	00, 000
		 -	220	5, 000	5, 200			
			260	6, 700	7, 000			
			120	3, 800	3, 900			
			780	18, 000	19, 000			
			120	2, 200	2, 300			
		ヒメネズミ						
			150	5, 600	5, 800			
			540	14, 000	15, 000			
			1, 800	33, 000	35, 000			
			1, 800	59, 000	61, 000			
			240	5, 600	5, 800			
			470	13, 000	13, 000			
			480	16, 000	16, 000			
			900	22, 000	23, 000			
			120	3, 200	3, 300	リター層:		
大熊町	14. 2	コムムゴン	680	15, 000	16, 000	4, 100	110, 000	110, 000
夫沢①	(13. 3–15. 1)	アカネズミ	330 360	8, 600	8, 900 8, 900	土壌:		
			1, 100	8, 500 30, 000	31, 000	11, 000	290, 000	300, 000
			1, 100	34, 000	35, 000			
			480	13, 000	13, 000			
			67	2, 400	2, 500			
			430	12, 000	12, 000			
			420	11, 000	11, 000			
			230	4, 800	5, 000			
			220	5, 900	6, 100			
				•				

*1:放射能濃度については有効数字2桁として算出。

*2:地点名の丸数字は過年度調査と統一。

表3 無脊椎動物(ミミズ類)及び試料採取地周辺の環境試料の放射能濃度

採取地点	空間 線量率	種		の放射能 (Bq/kg FW		環境試料の放射能濃度 (Bq/kgDW)		
市町村	(μ Sv/h)	i z	Cs-134	Cs-137	合計	Cs-134	Cs-137	合計
		ヒトツモンミミズ	48	910	960			
		フキソクミミズ	<47	550		U.5 🛱		
浪江町	2. 4	フトスジミミズ	<32	250		リター層: 210	5, 000	5, 200
南津島	(2. 1–2. 6)	フトスジミミズ	<45	250		土壌:		
		ヒトツモンミミズ	260	4,900	5,200	2, 300	64, 000	66, 000
		フキソクミミズ	<200	160				
1		Amynthas 属の一種	110	3,100	3,200			
		Amynthas 属の一種	540	11,000	12,000			
	1. 5	Amynthas 属の一種	190	5,000	5,200	リター層:		
双葉町	1. 5 (1. 3– 1. 6)	Amynthas 属の一種	110	1,500	1,600	990	26, 000	27, 000
山田		Amynthas 属の一種	58	1,300	1,400	土壌: 1,000	27, 000	28, 000
		Amynthas 属の一種	210	2,900	3,100	.,		,
		Amynthas 属の一種	100	2,200	2,300			
		フトスジミミズ	33	690	720			
		フトスジミミズ	190	3, 400	3, 600			
_L_45.m=	3. 4 (2. 8–4. 0)	フトスジミミズ	49	1, 100	1, 100	リター層:	10 000	10 000
大熊町 小入野		フトスジミミズ	150	1, 900	2, 100	380 土壌:	13, 000	13, 000
小八哥		フトスジミミズ	62	2, 100	2, 200	工場: 2,400	66, 000	68, 000
		フトスジミミズ	40	990	1, 000	2, 400	00, 000	00, 000
		フトスジミミズ	46	1, 400	1, 400			
		フトスジミミズ	530	16,000	17, 000			
		フトスジミミズ	1, 000	27, 000	28, 000			
		フトスジミミズ	1, 000	27, 000	28, 000			
		フトスジミミズ	920	25, 000	26, 000	リター層:		
大熊町	14. 2 (13. 3-	フトスジミミズ	1, 300	35, 000	36, 000	4, 100	110,000	110, 000
夫沢①	15. 1)	フトスジミミズ	1, 100	31,000	32, 000	土壌:		
	,	フトスジミミズ	1, 700	41,000	43, 000	11, 000	290, 000	300, 000
		フトスジミミズ	1, 200	32, 000	33, 000			
		ヒトツモンミミズ	1, 500	43, 000	45, 000			
		フキソクミミズ	1, 100	32, 000	33, 000			

^{*1:}放射能濃度については有効数字2桁として算出。

^{*2:}地点名の丸数字は過年度調査と統一。

表 4 植物及び試料採取地周辺の土壌の放射能濃度

① キンエノコロ

採取地域	空間 線量率	部位	100	式料中の濃 (Bq/kg) [;]	度 ※1	周辺土壌の濃度 (Bq/kg DW)		
市町村	(µSv/h)		Cs-134	Cs-137	合計	Cs-134	Cs-137	合計
	3. 2 (2. 9–3. 3)	葉茎	300	7, 300	7, 600	3, 100	86, 000	93, 000
浪江町 昼曽根		根	1, 800	49, 000	51,000			
空日化		種子	81	2, 700	2, 800			
)+ \— =	7. 5 (7. 3–7. 6)	葉茎	290	8, 400	8, 700	4, 600	130, 000	130, 000
浪江町 井手②		根	1, 200	32, 000	33, 000			
<i>πτ</i> ሬ		種子	200	4, 600	4, 800			
	10. 4 (9. 7–10. 9)	葉茎	160	4, 800	5, 000	5, 200	140, 000	150, 000
大熊町 夫沢③		根	1, 800	43, 000	45, 000			
		種子	56	1, 600	1, 700			

*1:種子はBq/kgFW (湿重)。それ以外はBq/kgDW (乾重)。

*2:放射能濃度については有効数字2桁として算出。

*3:地点名の丸数字は過年度調査と統一。

② チカラシバ

採取地域	空間 線量率	部位	Ī	式料中の濃 (Bq/kg) [;]	度 ※1	周辺土壌の濃度 (Bq/kg DW)		
市町村	(µSv/h)		Cs-134	Cs-137	合計	Cs-134	Cs-137	合計
)+ >= m		葉茎	160	4, 900	5, 100	3, 100	86, 000	93, 000
浪江町 昼曽根	3. 2 (2. 9–3. 3)	根	600	17, 000	18, 000			
空日似		種子	68	1, 200	1, 300			
)+ >= m	7. 5 (7. 3–7. 6)	葉茎	230	6, 900	7, 100	4, 600	130, 000	130, 000
浪江町 井手②		根	630	17, 000	18, 000			
) 1 E		種子	55	1, 200	1, 300			
	10. 4 (9. 7–10. 9)	葉茎	240	6, 600	6, 800	5, 200	140, 000	150, 000
大熊町 夫沢③		根	1, 200	34, 000	35, 000			
		種子	140	3, 000	3, 100			

*1:種子はBq/kgFW (湿重)。それ以外はBq/kgDW (乾重)。

*2:放射能濃度については有効数字2桁として算出。

*3:地点名の丸数字は過年度調査と統一。

3. 被ばく線量率の推定

測定した放射能濃度と、欧州原子力共同体が開発した線量評価に用いるソフトウェアである ERICA ツール^{※1}を用いて、被ばく線量率の推定を行いました。被ばく線量率の推定に当たっては、同一地点で同一種の試料が複数得られた場合や同一個体でも部位によって異なる濃度が得られた場合には、最も高い濃度を用いて、より大きな影響が生じうる条件を設定して保守的な推定を行いました。

具体的には、環境試料と生物試料の放射能濃度から ERICA ツール(ver. 1.3.1)を用いて算出した平均的な被ばく線量率に安全係数として3を乗じた被ばく線量率を算出し^{※2}、 ICRP の誘導考慮参考レベル^{※3}を超過するかどうかをみるとともに、ICRP (2014) の標準動植物の線量率一影響表と照合し、どのような影響が生じる可能性があるか評価を行いました。

被ばく線量率の推定を行った動植物のうち、一部の地域/動物種で、繁殖成功率の低下等の可能性が否定できない程度の数値が得られました。ただし、前述のとおり、本評価はより大きな影響が生じうる条件を設定して計算した保守的な推定を行ったものであり、実際にこのような影響が生じていることを示すものではありません。

- ※1:欧州原子力共同体が、環境の放射線防護を目的としたスクリーニングのために開発した線量評価に用いるソフトウェア
- ※2:サンプリングの不確実性等を考慮し、念のため、統計上ありうる被ばく線量率(95パーセンタイル値)を用いて保守的な評価を実施。被ばく線量率は、指数分布するとのERICAツールの仮定に基づき、95パーセンタイル値と平均値との比である3を安全係数として平均的な被ばく線量率に乗じて算出。
- ※3: ICRP は、各標準動植物に対し、算出された被ばく線量率が影響を考慮するにあたる量であるかを判断するための目安として「誘導考慮参考レベル (mGy/day)」を示している。

表5 標準動植物の誘導考慮参考レベル (DCRLs)

DCRLs (mGy/day)	μGy/h 換算	標準動植物				
10-100	416~4, 166	ハチ、カニ、ミミズ				
1–10	41.6~416	カエル、マス、カレイ、草本、褐藻				
0. 1–1	4. 16~41. 6	シカ、ネズミ、カモ、マツ				

表 6 被ばく線量率の推定と誘導考慮参考レベルから推定される可能性のある放射線影響

	生物	採取 地点	内部被ば く線量率 (<i>μ</i> Gy/h)	く線量率	く線量率	安全係数3を 乗じた線量率 (μ Gy/h)※1	安全係数3を乗 じた線量率 (mGy/day) ※1, 2	誘導考慮参考レベル から推定される、可能 性のある影響
		浪江町 南津島	1.3	21	22	66	1.6	雌雄の不妊による繁殖 成功率低下の可能性
小	アカネズミ	双葉町 山田	4.5	8.9	13	39	0.94	影響は非常に小さい
型 哺 乳	アガネスミ	大熊町 小入野	1.1	22	23	69	1.7	雌雄の不妊による繁殖 成功率低下の可能性
類		大熊町 夫沢①	9.4	95	100	300	7.2	雌雄の不妊による繁殖 成功率低下の可能性
	ヒメネズミ	大熊町 小入野	7.0	22	29	87	2.1	雌雄の不妊による繁殖 成功率低下の可能性
	ヒトツモンミミズ	浪江町 南津島	0.72	21	22	66	1.6	情報なし
無		大熊町 夫沢①	6.3	97	100	300	7.2	情報なし
脊椎	フキソクミミズ	大熊町 夫沢①	4.7	97	100	300	7.2	情報なし
動物	フトスジミミズ	大熊町 小入野	0.50	22	22	66	1.6	情報なし
123		大熊町 夫沢①	6.0	97	100	300	7.2	情報なし
	Amynthas 属 の一種	双葉町 山田	1.7	9.0	11	33	0.80	情報なし
		浪江町 昼曽根	6.5	11	17	51	1.2	情報なし
小	キンエノコロ	キンエノコロ 井手②	4.3	16	20	60	1.4	情報なし
型 陸		大熊町 夫沢③	5.7	17	23	69	1.7	情報なし
生植		浪江町 昼曽根	2.3	11	13	39	0.94	情報なし
物	チカラシバ	浪江町 井手②	2.3	16	18	54	1.3	情報なし
		大熊町 夫沢③	4.5	17	22	66	1.6	情報なし

^{※1} 同じ分類群の標準動植物の誘導考慮参考レベルに到達した場合、当該線量率の欄を薄い網掛けで示す。また、スクリーニング基準を超過した生物について ICRP の標準動植物の線量率-影響関係表に照合した結果、推定される影響が個体数の変化を通じて集団に影響する可能性のあるものを濃い網掛けで示す。

^{※2} 安全係数3を乗じた線量率 (参考値) (mGy/day)は、被ばく線量率 $(\mu Gy/h)$ を (mGy/day) に換算の後、3を乗じ有効数字2桁として算出。

【参考】本資料で用いた用語の説明

- ・空間線量率:空間中の γ (ガンマ)線量を測定したもので、1時間当たりのマイクロシーベルト(μ Sv/h)で表示した。
- ・放射能濃度:採取資料の放射能の値で、1キログラム当たりのベクレル(Bq/kg)で表示 した。放射能とは、放射性物質が放射線を出す能力のこと。
- ・被ばく線量率:採取試料が放射線を受けて吸収する単位時間当たりのエネルギー。1時間 当たりのマイクログレイ(µGy/h)で表示した。
- ・標準動植物: 国際放射線防護委員会 (ICRP) により、ヒトの放射線防護に対する考え方をヒト以外の生物に応用するために考えられた代表的な生物のモデル。シカ、ネズミ、カモ、カエル、マス、カレイ類、ハチ、カニ、ミミズ、マツ科、イネ科植物、褐藻類海藻の 12 種。
- ・湿重(FW): 試料の水分を含んだ重量。生重量、新鮮重量ともいう。キログラム(kgFW)で表示した。
- ・乾重(DW): 試料を乾燥させた時の重量。乾燥重量、乾物重量ともいう。キログラム(kgDW)で表示した。